

## 解放教育研究所とは

- ▶ 設立趣意書
- ▶ 寄附行為
- ▶ 役員体制
- ▶ 事業概要
- ▶ 収支決算・予算書

## 人権・共生・未来をつくる 月刊誌『解放教育』とは

- ▶ 編集長の横顔
- ▶ 長期連載の紹介
- ▶ 『解放教育』誌の略歴
- ▶ 今月号の特集・抜粋記事
- ▶ バックナンバーの紹介

## 関連情報

- ▶ 編集部だより
- ▶ リンク集

## 人権・共生・未来をつくる 月刊誌『解放教育』とは 今月号の特集・抜粋記事



2007年12月号(11月12日発行)  
特集「マイノリティの子どもと表現活動」

▼特集原稿よりちょこっと紹介！！

### 自分の航路を刻もう —トランスジェンダーという生き方—

土肥いつき

#### 1、わたしのこと

小学校の高学年になった頃だったと思います。わたしは自分の心の中にいくつかの「秘密」があることに気づきました。ひとつは「女性の服を着たい」ということでした。しかし、「女装」は笑いの対象でしかありませんでした。もうひとつの秘密は、「女性の肉体への興味」でした。単純に興味を持つだけではなく、その「肉体のパーツ」を自分の身体につけたいと思っていました。しかし、このようなことを考えているということを知られることは、とても怖いことでした。親にも兄弟にも友達にも先生にも言えませんでした。そんな自分を表現する言葉は、当時のわたしには「変態」以外に考えられませんでした。そして、こんな「変態」は、世界の中に自分一人しかいないと思っていました。だから、自分ひとりの秘密として隠すことにしました。そこでわたしは、そういった思いを、自分の心の中につくった「秘密の小箱」の中に放り込みました。そしてふたを閉め、心の中に少しだけ沈めました。すると、意外なほど簡単に隠せることに気がきました。

そうしてわたしは、小学校・中学校・高校・大学時代を過ごし、やがて教員になりました。

教員になったわたしは、部落の生徒や在日の生徒をはじめ、さまざまな生徒たちと出会いました。生徒たちとは、互いになんでも語りあいました。しかし、自分の中に、ほんの〇・一％だけ語っていない部分があることに、わたしは気づいていませんでした。

(中略)

#### 2、セクシュアリティの多重構造

従来、「性」は主に生殖についてのこととして語られてきました。そこでは、人間は男と女のふたつの性に生まれ、それらが互いに異性と結びつくものとされてきました。しかし近年、性科学の研究が進む中で、「性」はそのような単純なものではなく、もう少し複雑な多重構造をしていると考えられるようになってきました。こうした「性」のとらえ方を、ここでは「セクシュアリティ」という言葉であらわすことにします。

セクシュアリティを説明するために、ここでは、性社会学の研究者であり、自身もトランスジェンダーとして活躍されている三橋順子さんが考えられたモデルを使うことにします。三橋さんは、セクシュアリティを考える要素として、「身体の性」「性自認」「社会的性」「性的指向」の四つをあげ、これらが多重構造をしているとされます。

(続きは、本誌へ……)

#### その他の特集原稿は

おとなは子どもの表現に出会うために〈対談〉	上田假奈代・岩橋由莉
ジェンダー、民族的マイノリティと表現活動	皇甫康子
音楽室 ささまざまな音色の中で	岸田静枝
『『アイあい』ってなに？』	岡井寿美代

その他、充実した連載内容がいっぱいです。  
詳しくは……[明治図書『解放教育』の頁へGO!](#)